

# 令和6年度 《学校経営計画》

名張市立名張小学校

学校長 廣岡茂齊

## 1 学校教育目標

なかまいっぱい やさしさいっぱい やる気いっぱい 「生きる力」の育成

中学校ブロック小中一貫教育目標  
「地域とともに豊かな人間力を育む小中一貫教育」

## 2 めざす学校像、児童像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	ともに学び合う楽しい学校 ともに育てる開かれた学校	
○児童像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【確かな学力】【健やかな体】</li> <li>・やる気をもって主体的に学ぶ子ども</li> <li>○【豊かな人間性】</li> <li>・なかまとのつながりや命を大切にする子ども</li> </ul>	
○教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【指導】【組織】</li> <li>・子どもに寄り添い、その生活背景や思い、願いを知り、誠意と情熱をもって取り組む教職員</li> <li>・保護者や地域等と信頼関係を築き、連携・協働する教職員</li> <li>・チームワークを大切にし、信頼し合い、支え合って取り組む教職員</li> <li>○【ワークライフマネジメント】</li> <li>・業務の効率化を考え、効果的に働き、人生を豊かにする教職員</li> </ul>	
○保護者・地域像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てや教育活動に積極的に関わり、学校や地域等と連携・協働する保護者</li> <li>○地域のよさを生かしながら、温かく子どもを見守り、学校や家庭とともに子どもを育てる地域</li> </ul>	

## 3 学校の現状

- 令和6年度の在籍児童は415名（4月1日現在）で、今後は増加が見込まれる。
  - 児童は、個性豊かで、全体的に素直で明るい。
  - 家庭環境、生活習慣や学習習慣など、個々様々であり多様性がある。
  - 「『なかまいっぱい やさしさいっぱい やる気いっぱい』を考えて学校で過ごしている。」（AB評価R5 90.6% R4 90.4%）
  - 公共施設・歴史遺産・昔からの商店街、新しい町など豊かな学習環境で、地域学習や体験学習を取り入れながら学習を進めている。
- \* % は、R5年度児童アンケートA「そう思う・Bどちらかといえばそう思う」の数値

## 本年度の改善方策

- 主体的・対話的で深く学ぶ児童を育て、学力・体力の定着・向上を図る。
- なかまとのつながりや基本的な生活習慣を大切に、落ち着いて学ぶ風土を醸成する。
- コミュニティ・スクールとして、保護者・地域住民等と連携・協働し、学校経営の活性化を図る。
- 学校教育目標に向かい、全ての教職員がチームワークを大切にし、信頼し合い、支え合って取り組む。
- ◎ 児童の健康に配慮した安心・安全な教育を推進する。
- ◇ 「毎日、学校へ行くのが楽しい」と思っている児童の割合が増加するように取り組む。  
(AB評価R5 77.1% → 目標80.0%以上)

## 4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		4	5	6	7	8
1	主体的・対話的で深い学びを実現する取組【確かな学力】【健やかな体】	○	○			
2	人とのつながりや人権・命を大切にする力を育てる取組【豊かな人間性】	○	○			
3	連携・協働（CS・小中一貫教育・幼小中連携）を推進する取組	○	○			

## 5 令和6年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>		主体的・対話的で深い学びを実現する取組【確かな学力】【健やかな体】
A 今年度の成果目標		
<p>○ 学力・体力調査等で昨年度の結果を維持する。</p> <p>○ 「授業中、しっかり学習に取り組み、学習したことが分かる。」（児童アンケート） （AB評価R4 93.3% → R5 92.3% →目標 90.0%以上）</p> <p>○ 「家で、宿題や学習が、きちんとできている。」（児童アンケート） （AB評価R4 89.8% → R5 88.6% →目標 90.0%以上）</p>		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
①	算数科における少人数習熟度学習の推進、基礎的な学習、発展的な学習など個に応じた指導の充実を図る。	
②	「名小版なばり学」に取り組む中で、課題設定力、情報収集力、整理・分析力、まとめて表現する力を育てる。	
③	学習内容の定着・向上に必要な指導の充実を図る。（家庭学習の充実）	
<b>重点的な取組事項－2</b>		人とのつながりや人権・命を大切にする力を育てる取組【豊かな人間性】
A 今年度の成果目標		
<p>○ 「毎日、学校へ行くのが楽しい。」（児童アンケート） （AB評価R4 78.0% → R5 77.2% →目標 80%）</p> <p>○ 「学校や家や地域で、あいさつをしっかりとしている。」（児童アンケート） （AB評価R4 90.3% → R5 91.1% →目標 90.0%）</p>		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
①	あいさつ・廊下歩行・言葉遣い等、落ち着いた生活習慣が身につくように取り組む。 ・三つの『あ』（「あいさつ」「あるく」「あそぶ」）の定着	
②	日常観察や日記、Q U調査等により児童の様子を丁寧に把握し、保護者や地域と連携しながら良好な人間関係づくりや仲間づくりに取り組む。「いじめはどんな理由があってもいけない」意識の徹底	
③	人権教育及び特別の教科「道徳」の授業の充実を図り、人権や命の尊さについて学び、日常的な実践力を育てる	
<b>重点的な取組事項－3</b>		連携・協働（CS・小中一貫教育・幼小中連携）を推進する取組
A 今年度の成果目標		
<p>○ 「名小版なばり学」において、各学年で地域と連携した取組を行う</p> <p>○ 学校運営協議会開催（3回）と学校支援体制の構築</p> <p>○ 名張中学校区小中一貫教育ランドデザインの実践推進</p>		
B 目標実現に向けた取組		
具体的な方策		
①	地域資源の掘り起こしと教材化を行う	
②	学校運営協議会による運営参画・学校支援（ボランティア体制）、地域との協働活動の推進	
③	名張中学校区のコミュニティ・スクールとしての取組の充実	

上限時間に基づく目標		
成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	30時間以下
	年360時間を超える時間外労働者数	0人
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人
具体的な方策	○分掌業務の役割分担の明確化や細分化により、業務量の適正を図る。	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	15日以上 (取得可能日数の60%以上)
具体的な方策	○業務の補充体制を組織的に行い、休暇を取得しやすい環境を醸成する。	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	90%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	60%以上
	放課後に開催して90分以内に終了した会議の割合	100%
具体的な方策	○各自が主体的に週1回以上定時退校をし、意識向上と時間外勤務時間の縮減を図る。 ○全ての会議や打ち合わせにおいて、所要時間を設定することを習慣化する。	